（別紙様式９）

論文審査、試験及び学力の確認の結果報告書（記載注意事項）その１

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 報告番号　　　第　　　　　号 | 氏　名 | 浜松　太郎 |
| 論文審査担当者試験・学力確認担当者 |  | （職） | 氏　名 |
| 主　査 | 教　授 | （氏　名①） |
| 副　査 | 教　授 | （氏　名②） |
| 副　査 | 准教授 | （氏　名③） |
| 論文審査の結果の要旨ここには、論文審査の結果の要旨を日本語で作成してください。文字の大きさは12pt、フォントは日本語については明朝、英数字についてはTimes（またはTimes New Roman）です。文章は、［申請者が取り組んだ研究の背景］、［申請者が行った実験］、［実験結果・考察］、［申請者の導き出した結論］、［本論文を高く評価した点］等のように、構成を立て、400字～600字程度で作成ください。またその際、カッコ書きでの**見出しは入れない**でください。なお、本論文を高く評価した点は、学術的な価値を表すものなので、分野の異なる研究者が見ても分かるように簡潔に表現してください。文章の結びは、以下の表現でお願いいたします。以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。**※結果報告書の提出については、かがみの文書を付して紙媒体で提出いただく際に、併せて大学院係（daigakuin@hama-med.ac.jp）まで電子媒体にてご提出ください。** |
| 試験及び学力確認の結果の要旨審査委員会は、本論文の関連研究領域及び専門分野全般の知識、倫理的判断能力等について試問を行った結果、博士（医学）の学位の授与にふさわしい学識を有することを確認した。 |

【論文審査、試験及び学力の確認の結果報告書の記載要領】その２

1. 公文書として保存されるので、きれいな印字とすること。字体は日本語「明朝体」、英語「Times（またはTimes New Roman）」を使用し、字の大きさはこの記載要領で使用している字と同じ12 ポイントを使用すること。読みづらい印字の場合、打ち直しを要求されることがあるので避けること。
2. 記載要領に従っていない場合は再提出が要求されるので、本記載要領を注意深く読むこと。
3. 誤字・脱字があれば再提出させるので、正確に記載すること。
4. 論文審査の結果の要旨は、日本語を用い、400 ～ 600 字程度とし、文字間と行間を空けて読みやすくすること。
5. 欧文（単語を含む）は、その欧文を日本語に訳すと意味が異なったり、適切な日本語訳がない場合のみとし、それ以外は日本語（カタカナを含む）に訳すこと。日本語訳は関連学会の用語集に準拠すること。名前の付いた病名の日本語訳は関連学会の用語を使用すること。略語は、なるべく用いないほうがよいが、用いる場合は正式名を本文中の初出時に記載し、括弧内に略語を記載することとし、その後から略語を用いること。略語が分野の異なる研究者が見ても一般的と思われるもの（例：DNA）は最初から使用してもよいが、なるべく前記の方法をとること。**欧文や略語等は、提出された論文内容要旨と整合性を持たせること。**
6. コロン、コンマなどの記号は「Times（またはTimes New Roman）」を使用し、後ろを半角スペース空け、英語普通名詞は原則小文字とする。
7. 論文審査担当者欄の②・③は主査以外の審査委員で職名順（教授，准教授，講師）及び氏名の五十音順で記載すること。
8. （注意）日本語の文章の句読点は「、（読点）」・「。（句点）」を用いること。
9. （注意）段落を変えた場合は、文頭を１文字空けて書き出すこと。